

コーパスを使用した受身文調査

——受動化の意味による分類から——

横 田 亜 朱 紗

1. はじめに

横田（2009）は、小規模なコーパスを使用して受身文の調査を行った。受身文の使用実態に関するある程度の傾向をつかむことはできたが、そのコーパスの規模の小ささによって絶対的な傾向であると述べるまでには至らなかった部分があった。本稿では、コーパスの規模を広げて受身文の使用実態の調査をする。

2. 先行研究

益岡隆志（1987）は、受身文の十分な分析をおこなうために、受動化の機能という観点より新たな3種による受身文の分類を提案した。それは「受影受動文」「属性叙述受動文」「降格受動文」である。

受影受動文とは、「対応する能動文のガ格以外の或る名詞句が、叙述されている出来事の結果として心理的或いは物理的影響を受けるということを明示的に表すためにその名詞句をガ格に昇格することによって得られる受身文」（p184）のことである。益岡によって次のような例が受影受動文として挙げられている。

（1） 太郎が友人にばかにされた。（例文（1）から（3）は益岡1987より）

ガ格の「太郎」が何らかの心理的影響を受けたことが対応する能動文「友人が太郎をばかにした」よりも明示的に示されている。また、受身文の主体と影響を与える出来事との関係は直接の場合もあれば間接の場合もあるとしており、これはいわゆる直接受身文と間接受身文のことである。

属性叙述受動文とは、「或る対象の属性の叙述にあたって、能動文を用いるとその対象がガ格以外の位置に現れてしまう場合には、その名詞句をガ格（主題）に昇格させること（すなわち、昇格受身文を用いること）に、動機が与えられる」（p188）受身文のことである。すなわち、所与の対象の属性を叙述することをめざして、ガ格以外の名詞句をガ格（主題）に昇格させるのである。益岡は以下のような例文を示している。

（2） この種の推理小説は日本の作家には一度も書かれたことがない。

この例文では主題の「この種の推理小説」について「日本では珍しい種類の小説である」というような有意義な属性を含意している文である。

能動文の場合、動作主を主体にすることによって、それがあつた事象を引き起こしたことが示されるが、受動文では「出来事の生起自体に関心が向けられ、その出来事を引き起こした動作主が不問に付される場合」(p191)がある。これを降格受動文という。能動文でガ格におかれる動作主がガ格の位置から降ろされ(降格)、代わりにそれ以外の名詞句(通常は対象名詞句)が空いた位置を埋めるために昇格する。それにより、動作主を背景化することを動機とする降格受動文が成立するのである。益岡が示した以下のような例文では、動作主は表れていないながらもその存在が含意されている。

(3) その寺は、9世紀前半に建てられた

現在、受身文の分類として主流なものは直接受身文・間接受身文、その中間として持ち主の受身文、の3分類である。しかし、このような構文的な特徴は、受身文の一つの側面にすぎず、益岡(1987)の指摘した受動化の意味的特徴はこの分類では見ることができない。受動化の意味、すなわち「なぜ受身文を使用するのか」ということは、日本語学習者に対する受身文の教授において重要なことであると調査者は考える。なぜなら、受身文の構造や意味に加えて、そもそもの受動化の意味(なぜ受身文を使用するのか)を知ることによってより日本語学習者が積極的に受身文を使用することができるのではないかと考えるためである。また、特に日本語教育としての受身文研究では、構文的な面ばかりではなく、教授の基となる受動化の意味について取り上げられる必要があるだろう。しかしそれらの使用実態については言及されておらず、未だ明らかにされていない。

3. 研究の目的と調査方法

本稿では、日本語母語話者がどのような受身文を使用しているのかを調査する。その為にまず日本語コーパスを用いて受身文の用例を採集し、それらの特徴によって類型化して傾向を量的に調査しその結果について考察する。

用例を採集するコーパスを話し言葉と書き言葉にわけ、それぞれ以下のようなコーパスを使用し調査対象とした。

【会話】①『筑波大学砂川研究室話し言葉コーパス』⁽ⁱ⁾(「学生会話」とする)約20万字分

②『女性のことば・職場編』⁽ⁱⁱ⁾(「女性会話」とする)約20万字分

③『男性のことば・職場編』⁽ⁱⁱⁱ⁾(「男性会話」とする)約20万字分

【新書】④『CASTEL/J CD-ROM』より社会科学系新書4冊^(iv)、計約20万字分

⑤『CASTEL/J CD-ROM』より自然科学系新書4冊^(v)、計約20万字分

以上のファイルをそれぞれ word 形式で保存し、検索ソフトで受身文を取り出し、Kwic 形式のリストを作成した。検索ソフトには [KWIC finder Ver3.28] を用いた。検索対象のファイルを指定した上で、文字列検索で、動詞の受身形語尾の「かれ」「され」「たれ」「なれ」「ばれ」「まれ」「やれ」「われ」をそれぞれ指定して検索を行い、その結果である検索一致リストをタブ区切りデータによって表示し、excel に保存した。そこから、受身文ではないもの(尊敬や可能等のラレル文と、使役受身)を抜き出して、受身文のみのデータとして整理

した。調査にはこうして得られた用例の全例を対象とした。

4. 本調査での受身文類型

本稿では、コーパスより採集できた受身文を益岡隆志（1987）の類型により分類する。

表1に具体的な分類を示す。用例は5章の調査結果で示す。

表1 本稿での受身文の分類

受影受身文	直接受身文	中立 (A)
		迷惑 (B)
	間接受身文	中立 (C)
		迷惑 (D)
	持ち主の受身文	中立 (E)
		迷惑 (F)
属性叙述受身文		(G)
降格受身文		(H)

まず、コーパスから採集できた受身文を上記の基準に従って、受影受身文・属性叙述受身文・降格受身文に分ける^(vi)。そして、構造的な側面からも考察するために、受影受身文をさらに直接受身文・間接受身文・持ち主の受身文で下位分類する。そして、その受影性によって生じる意味の違いを、中立・迷惑で分類する。尚、受身文における被影響（迷惑が生じるか否か）に関しては今まで明確な規定がされていないため、主体にとって事象が「好ましいこと」であるか「好ましくないこと」か、前後の文章を参照した上で調査者が判断し、どちらかに分類する。

5. 調査結果

最初に、分類結果の概観を見ていく。それぞれのコーパスによる受身文の出現数は表2のような結果になった。会話と新書ではそもそもの受身文出現数が大きく違った。調査で使ったコーパスの大きさは、会話が60万字、新書が40万字と、会話の方が大きかったにも関わらず、受身文の出現数は新書の方が圧倒的に多く、会話での出現数より約5倍の量である。

表2 コーパスによる受身文出現数

コーパス	出現数
会話	463
新書	2397

また、受動化の意味による分類を出現数でコーパスごとに示したのが表3である。会話で

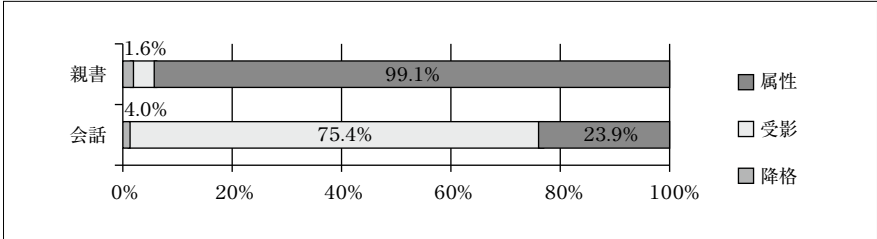
は受影受身文が最も多く、次いで降格受身文がその3分の1程度出現が見られた。新書では降格受身文が最も多く、新書の受身文のほとんどを占めている。両コーパスに共通して、属性叙述受身文は非常に少なかった。

表3 受動化の意味による分類（出現数）

	属性	受影	降格
会話	3	346	114
新書	30	96	2271
合計	33	442	2385

出現率を比較した図1を見ると、会話コーパスと新書コーパスでは受身文における受影受身文と降格受身文の割合がほとんど反対になっているということがわかる。会話コーパスでは2割程度の降格受身文の出現がみられるが、新書では受影受身文は1割にも満たなかった。

図1 受動化の意味による分類グラフ（出現率）



5. 1 会話コーパス

調査の結果をコーパスごとに分け、採集できた用例と共にみていく。

会話コーパスの、学生会話・女性会話・男性会話の3種類のコーパスから採集された受身文を、本調査の類型に従って分類をした結果が表4である。

表4 会話コーパス：受動化の意味による分類（出現数と割合）

	出現数合計	属性		受影		降格	
		出現数	出現率	出現数	出現率	出現数	出現率
学生会話	251	0	0%	210	82.1%	41	17.9%
女性会話	94	1	1.1%	64	68%	29	30.9%
男性会話	118	2	1.7%	72	61.0%	44	37.0%

すべてのコーパスで受影受身文が最も多く、特に学生会話では全体の8割をも占めている。女性と男性では共に7割弱程度の出現がみられる。降格受身文はそれぞれ2割弱～3割程度

出現していた。以下に実際に本調査で採集できた用例を示す。

- (4) 「日本語ジャーナルは、世界中で売られるんだよ。すごいな。」(女性・属性)

日本語ジャーナルという雑誌について会話をしている場面での用例である。この受身文での主体である「日本語ジャーナル」が日本国内のみならず世界中で発売しているということを受身文で述べることにより、話者が後述しているように「すごい雑誌である」という雑誌の属性を述べている。

- (5) 「なんか、先輩にだまされて、インドだったら、なんか、1年間、4万円あれば、あ、1か月暮らせるかなんかって言われて。」(学生会話・共に受影・直接―迷惑)

話者自身の経験を述べている。話者が学生時代にインド旅行へ行く際に先輩から言われたことを、「だまされた」と受身文にして表現している。

- (6) 「ああ、なんだ、えーでもあれ、スワロウテイル公開されたときさあ、結構すごいわれてたよ。」(学生会話・降格)

“スワロウテイルという映画が公開した時”のことにについて話している場面である。この映画を主体にして受身文にすることにより、映画を公開したなんらかの動作主について背景化している。

5. 2 新書コーパス

新書コーパスの、自然科学・社会科学の2種類のコーパスから採集された受身文を、本調査の類型に従って分類をした結果が表5である。

表5 新書コーパス：受動化の意味による分類（出現数と割合）

	出現数合計	属性		受影		降格	
		出現数	割合	出現数	割合	出現数	割合
自然科学	906	14	1.6%	41	4.5%	851	93.9%
社会科学	1491	16	1.1%	55	3.7%	1420	95.2%

両コーパス共に降格受身文が最も多く9割を超えており、属性叙述受身文と受影受身文はどちらのコーパスにおいても1割にも満たなかった。新書コーパスにおける受身文のほとんどが降格受身文であったと言える。以下に本調査で実際に採集できた用例を示す。

- (7) リヨン大学のジュヴェーのもとで、長年レム睡眠の神経機構の研究をつづけ、世界に知られる日本人学者がいる（自然科学・属性）

- (8) もちろん、自分の変わり方はてた姿を見られたことを怒った女神は、夫神を追ってくるが、それは物語展開上、必要とされた筋の改変、あるいは後代の智慧などによることで、神話の祖型は、女神の遺体の腐爛状態の描写箇所、より多く遺されているのではなかろうか。(社会科学・受影・直接―迷惑)

- (9) とはいえ、神秘的な眠りの世界のとびらが、ようやく開かれようとしている、という

程度であろう。(自然科学・降格)

5. 3 受影受身文の構造による分類

会話コーパスと新書コーパスで採集した受影受身文を、さらにその文構造によって分類した。まずは両コーパスの概観を見ていきたい。

直接受身・持ち主の受身・間接受身の3分類を会話と新書でそれぞれの出現率を比較したのが図2である。また表6は、分類した受身文を迷惑の意味の有無で分けている。

図2 会話・新書コーパスの受影受身文：構造による分類（割合）

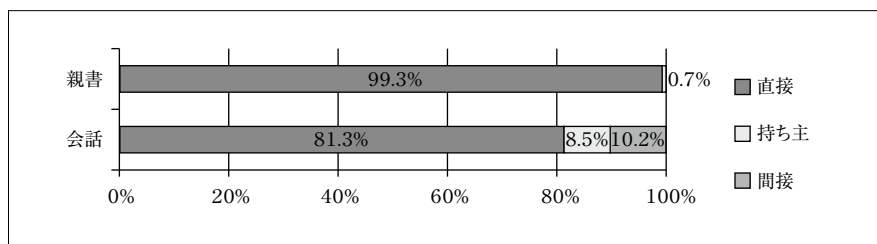


表6 会話・新書コーパスの受影受身文：構造による分類
(出現数と両コーパスの構造毎における中立と迷惑の出現率)

	直接		持ち主		間接	
	中立	迷惑	中立	迷惑	中立	迷惑
会話	91 (32.5%)	189 (67.5%)	3 (9.1%)	31 (93.9%)	0 (0%)	32 (100%)
新書	54 (58.7%)	38 (41.3%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0%)	2 (100%)
合計	145 (39.0%)	227 (61.0%)	4 (11.4%)	31 (88.6%)	0 (0%)	34 (100%)
	372 (100%)		35 (100%)		34 (100%)	

会話・新書両コーパスとも直接受身が多く会話では8割、新書では9割と、持ち主の受身・間接受身と比べて圧倒的な量を占めている。持ち主の受身と間接受身はほとんど会話コーパスでのみ出現しており、特に間接受身文は新書コーパスにおいてわずか2例しか見ることができなかった。会話コーパスでは、持ち主の受身と間接受身はほぼ同じ位の出現がみられた。

受身文の迷惑の意味の有無については、会話コーパスでは直接・持ち主・間接のすべてにおいて迷惑を意味する受身文の方が多く、持ち主の受身と間接受身では特に顕著であった。直接受身文の中でも、迷惑は中立と比べて倍以上の出現数であった。

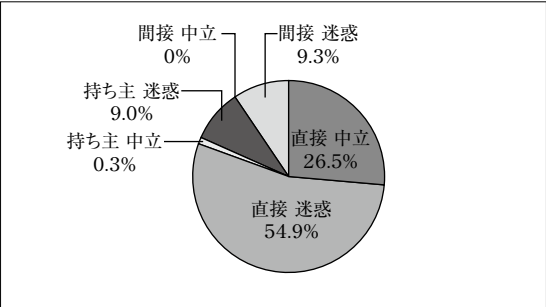
新書コーパスでは、受影受身文の中のほとんどを占めている直接受身文において、中立の受身文の方が迷惑を意味する受身文より非常に高い出現率が見られた。会話コーパスでは迷

惑受身が多く、新書コーパスでは中立受身の方が多いという点で、大きく違う結果であった。会話コーパスと新書コーパスに分けて、詳しい調査結果をのべていく。

5. 3. 1 会話コーパス

受影響受身文の構造による分類結果を、会話コーパスのみで表示すると図3のようになる。直接受身が最も多く、迷惑受身と中立受身を総合すると全体の8割を占めている。また、直接受身の中では迷惑受身の方が多く、中立受身の倍以上の割合で出現している。それは持ち主の受身、間接受身でも同様で、中立受身より迷惑受身の用例の方が多く見られた。

図3 会話コーパス受影響受身文：構造による分類（割合）



- (10) 「めちゃくちゃみんなに嫌われてて、なんか、一言しゃべるたびにこう、罵声を浴びせられるぐらいに嫌われてるんだって。」（学生会話・受影—直接—迷惑）
- (11) 「すごく歓待されて、すごく喜んでおりました。」（男性・受影—直接—中立）
- (12) 「でも友達に電話切られるの。」（学生会話・受影—間接—迷惑）
- (13) 「かっ買うほうも貼られるほうもすごい楽しくて、ラジオ体操いくの。」（学生・受影—持ち主—中立）
- (14) 「なんか、盗難で取られて一、かえってきて一、誰もの、もう乗る人がいなくて放置されてた自転車もらったんですよ。」（女性・受影—持ち主—迷惑）

また、会話コーパスの受影響受身文では直接受身であっても行為者が文面に表れていない用例が多く見られた。以下のような例である。

- (15) 6 畳ぐらいの脇の待合室に座って待ってて、それで、案内されて、こんなあのステキね、ちーちゃい。（学生・受影—直接—中立）
- (16) 態度とか発音とかで、うざいとまでいわれちゃうんです。（女性・受影—直接—迷惑）
- (17) いや、でもね、最後のここへの移動は、わたし確かに頼まりましたけどね。（男性・受影—直接—中立）

(15) では行為者である、話者を案内した誰か、(16) では「うざい」と言う誰か、同じく(17) では話者に頼んだ誰かがこの一文を見ただけではわからない。しかし、行為者がはっ

きりと文面に表れていなくても、「私が〇〇に案内された」または「私が〇〇に言われた」、「私が〇〇に頼まれた」という受身文であるとわかるので受影受身文の中の直接受身だと判断することができる。

5. 3. 2 新書コーパス

新書コーパスでは全体の99パーセントが直接受身文であった。間接受身文はわずか1例、持ち主の受身文は2例しか見ることができなかった。

(18) あたたかいミルクを飲むと眠れるのは、むかし母親の胸にだかれて、乳をすいながら眠った、たのしい思い出につながるからだ、という説明をする人すらいる。(自然科学・受影—直接・中立)

(19) このために利休は、ついに秀吉によって切腹を命じられたのである。
(社会科学・受影—直接—迷惑)

(20) それとも幕府に蝦夷地の広大なことを知られるのをおそれて、松前藩で故意に蝦夷島を縮小して提出したとも考えられる。(社会科学・受影—間接—迷惑)

(21) 内科医の診察を受けた時に膝蓋骨の下をハンマーで叩かれたり自分で膝を組んでお皿の下を叩いたりした経験をおもちだろう。(自然科学・受影—持ち主の受身—中立)

(22) 運悪く同年、スペインの商船サンフェリペ号が土佐の浦戸沖に漂着し、秀吉にその荷を略奪されるという事件がおこった。(社会科学・受影—持ち主の受身—迷惑)

また、会話コーパスとは違い、迷惑より中立の意味の受身文の方が多く新書コーパスの受影受身文の約6割が中立の意味の受身文であった。

以上、受影受身文の構文による分類の結果と用例を見てきた。会話コーパスと新書コーパスでは、直接受身がほとんどであるという点では共通していたが、意味の面では、会話コーパスでは迷惑が多く新書コーパスでは中立が多いという点では異なっていた。また、特に間接受身文の出現が非常に少なかった。本章では、会話と新書では用いる受身文の形は同じであるが、用いて述べる内容の意味（迷惑の意味があるかどうか）には違いがあるということがわかった。

6. 結果のまとめと考察

以上の調査結果から以下のように考察する。

- 1) 本調査で採集できた受身文はそのほとんどが直接受身文であり、間接受身文と持ち主の受身文は非常に少なかった。また会話の受身文では、実際の使用例を見たところ、受影者が主格にたって焦点を当てられているだけでなく、その事象の行為者が文面に表れていないことがしばしば見られた。よって、初級の日本語教育では直接受身文のみの指導にし、中級以降で間接受身と持ち主の受身を扱うという段階的な指導方法をするべきである⁴⁴⁾。
- 2) 直接受身文では迷惑の受身文の出現数が多かったが、中立受身文も全体から見ると相当数の出現があった。よって、迷惑の意味のみ強調することなく、中立の受身文についても

指導する必要がある。

- 3) 持ち主の受身文と間接受身文では、ほとんど迷惑の意味のみの出現であった。これらの中立受身文はやはり、特に初級段階では言及することなく、迷惑の意味のみの指導でよいのではないか。
- 4) 降格受身文の出現数はどの受身文より多かった。特に新書コーパスでの出現が多かったため、中級以降の、大学進学を目指す就学生やビジネスマンのような、新書レベルの日本語文章を読む必要のある日本語学習者には、降格受身文の詳細な指導をするべきである。

7. おわりに

以上、いくつかのコーパスを使用して受身文を調査しその考察を行った。受身文は会話においても新書においてもよく使用されていたが、会話と新書では使われ方や意味に明確な違いが見られた。本稿では、横田(2009)では網羅しきれなかった受動化の意味による受身文の使用実態について調査することによって、受身文指導で焦点を当てるべき部分の一端について指摘することができたであろう。コーパスの規模や、出現の少なかった類型や構文に関しての考察といった不十分な部分は今後の課題としたい。

注

- (i) 筑波大学文芸・言語系教授(現・同大学大学院人文社会科学系研究科教授)砂川有里子教授が、1997年から2004年にかけて授業で学生と作成した会話のコーパスである。会話のジャンルは日本語母語話者間と日本語母語話者と非日本語母語話者の自由会話、ストーリーテリング、ミーティング、テーマ会話、職場の会話となっており、それらを録音機材で録音し文字に起こして作成している。会話の話者全員に、氏名や連絡先、所属、母語、性別、年齢、会話相手との関係を記入する調査票を配布し記入してもらい、データ化してある。そのデータを参照し、非母語話者が参加している会話を除いた他の部分を採取して約20万字のファイルを作成し、調査対象とした。
- (ii) 現代日本語研究会の作成による、職場での会話を収録したデータである。会議、打ち合わせといった仕事における談話と、休憩時の雑談が含まれている。これらの中から談話部分のみ採取したところ20万7千字であったため、端数を切り捨てて20万字のファイルを作成し、調査対象とした。
- (iii) 『女性のことば・職場編』と同様、談話部分のみ採取し、約20万字のファイルを作成し、調査対象とした。
- (iv) 織田武雄(1974)『地図の歴史—日本編』中川剛(1985)『憲法を読む』吉田寿三郎(1981)『高齢化社会』下川浩一『日本の企業発展史』以上4冊を合わせた計約20万字分を調査対象とした。
- (v) 井上昌次郎(1988)『睡眠の不思議』米山正信(1991)『化学とんち問答』吉岡郁夫『人体の不思議』中原秀臣(1991)『進化論が変わる』以上4冊を合わせた計約20万字分を調査対象とした。
- (vi) 益岡(1987)(1991)では「受身文」ではなく「受動文」という用語を使用しているが、本稿では日本語教育としての位置付けを示すものであるので、「受身文」と明記して調査をすすめることとする。
- (vii) 安藤・小川(1999)も受身文の段階的シラバス化について述べている。その指導順は、初級では有情物主体の受身文の直接受身文・間接受身文・持ち主の受身文を指導し、中級では非情物主体の受身文を指導するという順序となっており、本稿でのこのような提案とは異なるものである。

参考文献

小川誉子美 安藤節子(1999)「文法項目の段階的シラバス化—受身の場合—」『世界の日本語教育』第9号 国際交流基金

小川譽子美 安藤節子（2001）『日本語文法演習 自動詞・他動詞・使役・受身ーボイスー』スリーエーネットワーク

益岡隆志（1987）『命題の文法』くろしお出版

益岡隆志（1991）「受動表現と主観性」『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版

益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法―改訂版―』くろしお出版

横田亜朱紗（2009）「話し言葉の受身文と書き言葉の受身文」『国文目白』日本女子大学国語国文学会